

令和5年度 第1回羽曳野市子ども読書活動推進委員会会議録（要録）

日 時： 令和5年8月29日(火) 午前10時30分～午後0時

場 所： 羽曳野市役所 別館2階研修室

出席者：（委員）荒川委員、江川委員、金本委員、佐原委員、永尾委員、畑委員、藤井委員、前田委員、
脇谷委員 （五十音順）

（教育委員会）村田教育長、田中生涯学習部長、河野主幹

（事務局）藤本館長、白江主事、岩佐再任用

欠席者：（委員）高崎委員

傍聴者： なし

次第

1.開会

委嘱状交付

教育長挨拶

事務局より、会議録の要録をWEB及び中央図書館にて紙ベースで公開すること、そのため会議を録音することを報告

委員の紹介、出席者9名で委員会成立の報告、事務局職員の紹介

事務局より推進委員会設置規則の説明

2.議事

会長、副会長の選出 会長に前田委員、副会長に高崎委員を全会一致で選出

第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

3.閉会

生涯学習部長あいさつ

報告

第3次羽曳野市子ども読書活動推進計画の進捗状況について

配布資料「第3次子供読書推進計画に関する進捗状況」に基づき説明

意見等

- ・1ページに4ヶ月健診時にカードを作ると赤ちゃん絵本をプレゼントの件数が出ているが、その検診に参加したどれぐらいの割合の方がカードを作るのかということを把握していれば教えていただきたい。
→こちらについては実件数のみの把握となっており、検診を受けられた方が何名で、そのうち何件なのか、所謂パーセンテージいうところは、現状把握できていないので、次の委員会でご報告させていただきたい。
- ・本の修理講習会とありますが、今は物を大切に修理するような時代ではないと思う。それよりは自分の気に入った、例えば写真集だとか、そういうものを冊子にして作るような講座の方がいいのではないかなと思う。
→修理は時代に合わせた形の取り組みというところ、ご提案いただいている本の作成というところを含めて、今後検討していきたいと思う。

- ・1 ページ一番下の留守家庭児童についての欄に読書時間を設けていると書いているが、この指導員に対して例えば本の選び方なり本の読み聞かせの仕方とかを研修しているのかということもお聞きしたい。
→支援員に対する本の選び方については、そういった研修は行っていないと思う。本の読み方についてはこの場で回答することができない。

- ・2 ページの中高生の利用促進で、河原城中学の生徒による POP コーナーの巡回展示とあり、良い試みだとは思いますが、もう少し参加する中学校を増やすとか、興味をもつ生徒を増やすような働きかけというのはどうなのかなと思う。
→他の中学校にもということも、今後の課題とさせていただきたいと思う。展示のスペースや、年間を通して、この時期はスペースがあり展示することが可能ですよということで河原城中学校の展示を行っているので、図書館も年間を通していろいろと展示をしているので、これを他の中学校まで広げていくと、どの時期にどの中学校が可能なかということところを総合的に検討していきたいと思う。

- ・インターネットを活用したサービスの実施というのがあるが、どれぐらいアクセス数があるかというのを把握する必要があるのと、それが本当に必要な人に届いているのか、例えば中学生はどれぐらい実際に見ているのかということもあるので、数字を把握してほしい。
→インターネットでの検索数というところについては、把握できていない。ただ、図書館業務活動報告書の 18 ページに、各種サービスの状況ということで、羽曳野市立図書館のアプリをダウンロードいただいた数や、電子図書館利用状況については上げさせていただいている。

- ・本というのはそこに置いておくだけでは「読む」ということに繋がらない。やはり本と人をつなぐ人が必要。だから支援学校へ本を貸出しました、多言語の資料の収集をしています、必要な人は借りてください、だけでは実際の利用に繋がらないので、実際にそういう支援学校などに行って、本を読んであげるという試みが絶対に必要だと思う。本を置くだけではダメだということをすごく認識してほしい。
→館の方で検討していきたい。可能であれば、また今後、事業展開していきたいと思う。

- ・3 ページに職員の児童サービスの研修の実施というのがあるが、この府立図書館の出前講習の内容はどういうものであったかをお聞きしたい。
→昨年度の府立図書館の出前講座は、テーマが児童へのレファレンスについてとパスファインダーの作り方についての演習をしていただいた。図書館の職員 27 名の参加があったと思う。職員の半数以上が出席ということだった。今年度については郷土資料についてのレファレンスについて、をテーマにさせていただく予定。今回は学校司書の方にも呼びかけて、学校司書と合同で研修という形にさせていただく。今学校司書から 10 名ほど申し込みいただいているので、かなりたくさんの参加が見込まれている。

- ・4 ページに学校司書会の開催というのがあるが、学校教育課による学校訪問・ヒアリングを全校で実施というふうになり、令和 4 年は 15 校 15 名と書いているが、そこでどういう結果をどう活かしているのかをお聞きしたい。
→昨年度の担当者がこの学校ヒアリングの中でどのような内容を把握しているかということはまだ引き継ぎがうまくできてない。今ご指摘いただいたような結果をまず聞いて、今年度の取り組みにどう反映していけるかということを検討させていただけたらと思う。

- ・5 ページに子供の読書活動推進のための体制の充実と職員の育成というのがあるが、大阪府の実施する職員研修は大抵 1 人か 2 人しか参加できないと思うが、その研修の成果というのを参加できなかった方に共有するシステムがあるのか。

→研修を受けてきた者からの情報共有を全てされているかどうかについては、されていますというふうには答えづらいところがあるが、ポイントについては、共有を行っている。今後共有のあり方についてはさらに充実させていきたいと考えている。

- ・中学校の図書室の今のその状況について

→中学校の方には司書が配置できていないという状況がある。高鷲中学校・高鷲南中学校を兼任で回っているのではなかなか固定ということができていない。環境としてもまだ中学校の図書館に視察に行けていないという現状があるので、しっかり見ていかないといけないかなと思う。開館は委員会を中心として週に 3 回や、学校によれば毎日開館しているというようなこともあったかと思う。

- ・子どもと読書を結びつける一つの方法でゲームみたいなかたちで内容を深く読み取ったり考えたりするようなアニメーションという方法がある。そのような試みも学校図書館で実施してくれたら嬉しい。
- ・読書が人生について役に立つなどより、まずは楽しいということを、前面に出して参加してもらい、楽しいから参加してねというような取り組みというのがヤングアダルトに対しては絶対に必要だと思うのでそこを意識した取り組みをしてほしい。
- ・読書よりも刺激的なスマホで簡単に知りたい場合もすぐ見られるので、活字を読むというのはなかなか困難な時代になっているが、本を読まなくてもいいかということそうでもない。脇明子さんの「読む力は生きる力」という本があるが、まさに活字を読む力というのは生きる力に結びついている。楽なメディアではなく少しでも活字を読み取ってそれがどういうことを理解して、自分できちんと活字を発信できる力をつけてあげるとするのがものすごく大事だと思う。だからこの読書活動推進というのは引き続き努力して継続していかないといけないと思う。

- ・留守家庭の子どもたちを訪ねていくと、学校で借りた本や学童の部屋に置いている本を各自読んでいるという状況は目にすることがある。ボランティアの方々のお時間が可能であればぜひストーリーテリングの経験をさせてあげたい。またWEBに学校司書の方が作ったものもいろいろ掲載されているので参考にいただけると嬉しい。

- ・学校司書の皆さんも学校のなかでよくやっていただいているが、担任の先生とより連携を取りながら学校全体で読書活動推進を進めていきたい。今年度に関しては大阪府から予算をいただき、大阪府のスクール・エンパワーメント推進事業という、加配をつけて学校図書館を活用しながら学力向上を目指していくような取り組みを埴生南小学校で実施している。本を使ってどのように学習力を高めていくかというようなことを、この埴生南小学校の実践を通して、10 月にある公開授業等で府域や市域に発信していく。

- ・年齢が増すごとに読書率が減ってきているということを改めてお聞きして、人と人とが繋がるものが、本と本でもあるということとはとても共感できる。人との繋がりが今すごく減ってきているなかで、昔からずっとあるものを大切にしながら、人としての大切さも繋げるものと改めて学ぶ機会となった。

- ・教育長のお話にもあったとおり、保護者への啓発の必要性は本当に大事だなと思っている。今の子ども達はスマホからの情報に興味はあるものの、本への関心もある。「この本すごくおもしろいよ」と友達から聞いてそれがどんどん流行っていった図書館から借りてみたり、買い集めてみたり。そういう友達同士の関わりのなかで読書への関心の輪は広がっていくと思うので、私たちがきっかけを作ることが大事だと思う。
- ・羽曳が丘小学校の学童のおはなし会に行き、絵本『くじらだ!』、『なまえのないねこ』、『うみのみずはなぜからい』を読んだらとても反応がよくみんな楽しんでくれた。自分が伝えたい本を一生懸命読むと子ども達も集中して一生懸命聞いてくれた。本の楽しさや感動を伝えたい人間がいて、それを聞いてくれる子どもがいたら、そこで繋がっていくと思う。
- ・家に帰ったら YouTube を見ている、そんな時代の子子ども達ですが人の声を聞く、人と関わって絵本を見るということの大切さはすごく思う。すごく元気でやんちゃな子どもたちもちょっと手遊びをして、絵本と一緒に読んだら、絵本の内容と一緒に共感してくれてページを開くごとに反応してくれてすごく楽しい時間を過ごせる。コロナでおはなし会が何年も中止になっていたと聞いているので今年はぜひボランティアさんのお力を借りておはなし会を開催していきたいなと思っている。
- ・子どもの読書に関心を持つ、子どもに関心を持つ、そしてそれぞれ自分ができることやこうしたらいいのではないかと考えるのはすごく大事。だから大人が子どもに関心を持ってほしい。子どもの読書率や学力とかあるが、これは図書館だけの取り組みで結果が変わるわけではなく様々な要素があるのでなかなか成果は見えない。みんなが読書や子どもに関心を持つこと、すぐに成果は見えなくても継続してやっていくことが大事だと思う。
- ・絵本や児童書などを持っていき、おはなし会の後、10分ほどブックトークをしている。その本を司書の先生方が揃えて、私たちが帰った後も引き続き子ども達はその本を読めるようにしていただいている。私たちも自分たちが読んでほしいと思う本を直接子ども達に進めるという活動を5、6年させていただいて、わずかながら子ども達に本が手渡っているのかなと実感している。子ども達の身近にいる方々が子ども達に直接本を手渡す、読書の喜びを教えるということがやはり大事だと思う。保護者の方々にもっと子ども達に本を読んでもらうということがいかに大事かを認識してもらうための啓発活動というのは今後重要ではないかと思った。
- ・陵南の森図書館で開催される村上しいこさんの講演会のような講演会に例えばPTAを介するなど何らかの形でPRして小中学生の保護者の方に聞きに来ていただけたらと思う。子育て現役世代の方にぜひ聞いていただけるように、働きかけをしていただけたらと思う。